

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 保 第 49 号 乙 保	氏 名	近藤 彩
審査委員	主 査 岡久 玲子 副 査 奥田 紀久子 副 査 友竹 正人		

題 目 Development and Psychometric Testing of the Mental Health Scale for Childrearing Fathers  
(育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度の開発)

著 者 Aya Kondou, Mari Haku, and Toshiyuki Yasui  
 2021年11月オンライン掲載済 healthcare, 9 (11), 1587  
<https://doi.org/10.3390/healthcare9111587>

要 旨 本研究は、『育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度(MSCF)』の開発を行い、その信頼性と妥当性の検証を行うことを目的とした。尺度原案作成からプレテストを経て、本調査を行った結果、MSCFは、【家庭における心の安寧】、【心身の健康感】、【父親として感じる満足】、【父親としての有意義な生き方】の4因子25項目で構成された。尺度全体のクロンバックの $\alpha$ 係数は0.918と信頼性が確認でき、探索的因子分析により構成概念妥当性を確認し、基準関連妥当性・収束的妥当性は、既存尺度と中等度～強い相関が認められた。確認的因子分析により、モデル適合度は概ね統計学的許容水準を満たしており、MSCFの信頼性と妥当性が確認できた。

母親となった女性のメンタルヘルスを測定する尺度であるエジンバラ産後うつ病質問票 (EPDS) は広く世界的に活用されているが、父親となった男性のメンタルヘルスを測定できる信頼性ある尺度は開発されていない。本研究により開発されたMSCFは、COVID-19感染拡大により家庭で過ごす時間が増える中、子育て世代の男性のうつ病の増加や、夫婦間のドメスティックバイオレンスと児童虐待の増加は、メンタルヘルスの不調が影響していると考えられ、父親のメンタルヘルスをアセスメントし、早期対応によりこれら社会的課題の解決につなげることが可能となる尺度である。

その社会的意義は大きく、博士の学位授与に値すると判定した。